

## 2003年度夏ヨルダン調査報告

|       |                                                                                             |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2017-10-03<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者:<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/2297/2928">http://hdl.handle.net/2297/2928</a>               |

# 金大考古 第43号

## 2003年度夏ヨルダン調査報告 田中範裕（修士課程1年）

私が参加させて頂いているヨルダン調査隊は、金沢大学文学部・藤井純夫教授の指揮の下、ヨルダン南部のジャフル al-Jafr 盆地を中心とした発掘を行っている（図1）。調査は1997年から開始され、今回で第7次を迎えた。第6次調査までの第1期では、後期新石器時代および前期青銅器時代の遺構が確認されているカア=アブ=トレイハ西 Qa' Abu Tulayha West 遺跡（以下 QATW）の調査を継続して行っていたが、本年度の春からは第2期に入りその周辺の遺跡の調査を開始している。私は第6次から参加しており今年の春の調査を含めると今回が3回目の調査であった。

本年度の調査は8月12日から10月11日にかけて行われ、例年よりも少し期間が短かった。今回のメンバーは、藤井純夫先生をはじめとして、松井みはる・田中範裕（金沢大学大学院）、森合恵子（新潟大学）の4名であった。今回調査した遺跡は、Harra al-Burma Cairn Line 1、Wadi Burma Kite Site 2、Wadi Burma Cist Enclosure 1,2（以下 WBS-CE1,2）、Harra al-Sayyiyeh K-line 1 の5遺跡である。今回の主要な調査目的は、前期青銅器時代に当たる QATW の第3層の円形遺構の正確な年代決定およびその位置付けのために、形状が類似する周辺の遺構を調査し比較資料を増やすということであった。特に WBS-CE1,2 は、石室 cist、祭壇部 platform、環状石列 enclosure から成る径約20mの遺構であり、QATW の比較例としても非常に興味深い（写真1）。ヨルダンやイスラエルの同様の過去の調査例では、銅石器時代とされているがその根拠は薄弱でありその機能も解明されているとは言い難い。この種の遺構は私



図1 ジャフル盆地

の修士論文のテーマであり、今後出土遺物の年代の研究や回収した炭化物の年代測定の結果を通じてこの種の遺構の正確な年代が判明すると思われる。

これまでの調査を通じて感じたことに、考古学の発掘、特に海外調査においては現地の労働者と良好な関係を築くことが非常に重要であるということが挙げられる。実際、そのような関係が築けていなければ、日程内に終わらせることができなかったという場面もしばしばあった（それ以上に調査中の面白みや言語の上達に欠けるとは思うが）。

私はヨルダン調査に6年目から参加しているが、このような信頼関係を築くまでの過去の調査隊メンバーの苦労は想像以上のものであったと思われる。過酷な環境の中で文化の異なる人々との人間関係に気を配るということは非常に難しいことではあるが、作業を円滑に進めるためには欠かすことの出来ないものであろう。私はこれまでの調査を通じて、今後の自分にとって非常に貴重な経験を積むことが出来ました。

最後になりましたが、今回の調査に参加する機会を与えてくださった藤井先生をはじめ、これまでのヨルダン調査に参加されてきた人々に感謝の意を表します。



写真1 WBr-GE2 全景②(W-E)